

飼料用とうもろこしのシバツトガ（新発生）

令和4年6月、中央農業試験場（長沼町）の飼料用とうもろこしで、ネキリムシ様の加害をする鱗翅目幼虫が確認された。出芽間もないとうもろこしが地際部で切断され、株際には土粒を綴った長さ数 cm の不定形の土繭が1から数個あり、その内部には体長1～2 cm の鱗翅目幼虫が認められた。ポットに播種したとうもろこし幼苗に幼虫を放飼したところ、土繭およびネキリムシ様被害が再現された。とうもろこし幼苗で飼育して得られた羽化成虫から、シバツトガ *Parapediasia teterrellus* (Zincken) と同定された。被害圃場は外縁にイネ科多年生雑草があり、播種前に雑草に除草剤を散布したためシバツトガ幼虫が圃場内に侵入したものと推測された。

本種幼虫は芝の害虫として知られイネ科を食草とし、芝草の破片や土粒を綴って「つと（苞）」を作り内部に潜む。幼虫の体色は淡灰褐色で、各体節の刺毛基部に横長の黒斑が目立つ。老熟幼虫は2 cm 程度に達し、幼虫で越冬する。道外では年3回程度発生を繰り返すが、北海道での発生生態は不明である。成虫は体長1 cm 程度で灰褐色を呈する。

（中央農試）



とうもろこしのシバツトガと「つと（苞）」（中央農試 武澤 原図）